令和8年度 農林水産祭「天皇杯」

営農部

林産部門　乾シイタケ

石原敬さん・裕さんが「天皇杯」を受賞！

農林水産祭の「天皇杯」の受賞者が10月13日に発表され、JA菊池椎茸部会の石原敬さん・裕さんが、林産部門で受賞しました。農水省と日本農林漁業振興会が主催。受賞者は、11月23日に東京で開かれる農林水産祭式典で表彰されます。

※「天皇杯」は、過去1年間の表彰行事などでの農林水産大臣賞の受賞者から選ばれます。今回は65回目。442点の中から7個人・団体が受賞。



石原さん
クヌギのほだ木を活用した原木椎茸栽培に取り組む。乾シイタケで受賞。

サツマイモ生育調査

営農部

収穫本番を前に出来を確認

■甘藷（かんしょ）部会は、サツマイモの収穫最盛期を前に9月24・25日の2日間、坪掘り生育調査を行い、今年の出来具合を確認しました。調査の結果、品種間差は見られたものの、肥大は概ね順調に進んでいます。

■坪掘りは支部ごとに分かれて、部会員一人ひとりの畑を回ります。1本の畝一坪（約4メートル）を掘り取り、作柄を確認。丁寧に調査し、掘り出されたサツマイモを手に、大きさや色などを確認しました。掘り取ったイモは洗浄後、支部代表を選定し品評会へ持ち寄ります。

■夏場の高温と少雨の影響で肥大不足が懸念されましたが、生育は良好です。適期収穫を行い、安定出荷に取り組みます。収穫作業は8月下旬から始まり、10月に最盛期を迎え11月下旬まで行います。



坪掘り調査



洗浄後イモを確認

甘藷部会サツマイモ査定会・品評会

営農部

最優秀賞に坂本さん、古庄さん

■甘藷（かんしょ）部会は9月29日、部会役員によるサツマイモ査定会を開き、出来具合や施肥・防除基準の確認をしました。令和8年産は部会員数28戸、栽培面積は61.5ha（前年比100%）。取扱品種ごとの品評会も行い最優秀賞を決めました。坪掘り生育調査で掘り出したサツマイモを4支部から選出。計14点を並べ、収量、大きさ、色や形などを部会役員とJA職員が審査。高系14号「ほりだしくん」は坂本学さん、「べにはるか」は古庄裕生さんのサツマイモを選びました。

■大田黒裕樹部会長は「猛暑の影響を心配したが、品質も収穫量も期待が持てそうだ。引き合いが強い2L・L・M中心での収穫を心掛けたい」と話しました。西淳史指導員は「これからさらに肥大は進んでいくので適期収穫を呼びかけている。収穫作業の忙しいこの時期は、当番制で出荷を行い、貯蔵作業をしっかりして12月からの出荷ピークに備えていく」と話しました。収穫されたサツマイモは貯蔵庫に保管することで甘味を増し、出荷調整をしながら来年6月まで出荷します。



